

時間割コード	774005	開講区分	第2学期
曜日・時間	水曜日・6時限		
開講科目名	神経社会環境学	定員	
開講科目名(英)	Socio-Neuro Science	単位数	2単位
場 所	金沢校講義室	年次	1年
担当教員	菊知 充、東田陽博、大井 学、池田尊司、橋本隆紀、戸田重誠、滝澤 昇、熊崎博一、越田理恵、村中達矢、齋藤大輔(金沢校)	授業形態	講義(オムニバス方式)
講義題目	神経社会環境学		
開講言語	日本語		
授業の目的	病いと社会とのかかわり、自閉症脳と非自閉症脳の相互作用、人間の社会的行動における合理性/非合理性という社会科学の伝統的テーマなどについて、神経科学を参照しながら社会学、心理学の観点から学際的に接近を試みる。また、ニューロンレベルから脳回路レベルまでの幅広い観点から、人の情報処理に関わるメカニズムについて理解する。		
学習目標	人と社会と環境間の関わりについて学習し、新しい学問領域である神経社会環境学について、自身の意見を持ち、その応用として他者に説明できる。		
授業計画	<p>(池田尊司/2回) ワーキングメモリは、思考と行動の制御に関わる実行機能の一つである。実行機能は、思考と行動の制御を行うプロセスであり、前頭葉の働きと関連することが脳科学研究からわかりつつある。社会やコミュニケーションについて、これらのワーキングメモリが重要な役割を果たしていることが判明している。このワーキングメモリを高める介入研究への期待と限界について理解を深める。</p> <p>(齋藤大輔/2回) 脳機能イメージング研究から社会的情報の認知に関わる脳機能について理解を深め、あわせて広汎性発達障害の社会的情報認知の特異性について理解する。</p> <p>(熊崎博一/2回) 嗅覚は生物学的には重要な感覚器官であるにもかかわらず、その社会的な意義や、自閉スペクトラム症における特異性については、学術的な検討はあまり十分にはなされていない。その理由は、嗅覚の刺激や反応を定量的にコントロールすることが困難であることと、脱感作が生じることなどからも、厳密な研究が困難であったことが挙げられる。この嗅覚特性について理解を深める。</p> <p>(橋本隆紀/1回) 大脳皮質は多様な機能を有する多くの領域から成るが、それぞれの領域は、共通したニューロン種とそのネットワークで構成される。本講義では、大脳皮質のニューロン種について概説し、特にGABA系ニューロンについて、その形態と機能の多様性を説明する。また、認知機能に障害が生じる精神疾患と皮質GABAニューロンの関係を紹介し、精神機能におけるGABA系ニューロンの重要性を理解する。</p> <p>(越田理恵/1回) 発達障害の社会環境とそれに対する行政(母子保健、幼少期、学童期のそれぞれに呼応した、保健事業、保育所/幼児教育、教育)の取り組みを理解する。</p> <p>(菊知 充/2回) 脳の解剖学的構造と、認知機能の関係全般について学ぶ。モノアミンの脳内の役割と精神状態の関係について理解を深め、あわせて広汎性発達障害の社会的情報認知の困難さについて理解する。また、オキシトシンが社会的情報認知に与える影響について、人を対象にした心理学的研究から理解する。</p> <p>(戸田重誠/1回) 意志決定の基本メカニズムを理解し、どのように神経伝達物質が関与するか、精神疾患ではどのように意思決定機序が障害されるのかを理解する。</p> <p>(滝澤 昇/1回) 2次障害とは主障害が日常生活を送る過程で別個の症状に波及し出現するものであり、発達障害の場合には思春期に時に激しい症状で発現する。症例を通して理解する。</p> <p>(東田陽博/1回) 社会脳に潤滑油のように作用しているオキシトシンの生理機能について、他人の関心が高まる事を知る。オキシトシン分泌低下を生じるCD38の遺伝子多型から自閉症発症人の道すじを理解する。</p> <p>(大井 学/1回) 過去30年の自閉症発現率急上昇の背景および家庭や雇用の場における対人関係と自閉症との関係について探る。</p> <p>(村中達矢/1回) 自閉症者や健常者が相手の気持ちを理解する認識過程の実態について、認識論・科学哲学における類推・推測・常識などに関する理論を踏まえて検討する。</p>		

	第1回(池田)ワーキングメモリの概念とその発達
	第2回(池田)ワーキングメモリと社会性
	第3回(齋藤)社会性と脳機能イメージング研究(暫定調整中)
	第4回(齋藤)脳機能イメージングにみる自閉症(暫定調整中)
	第5回(熊崎)自閉スペクトラム症と感覚特性
	第6回(橋本)大脳皮質GABA系ニューロンと認知機能
	第7回(越田)発達障害の社会環境と行政
	第8回(菊知)社会的情報処理と脳
	第9回(戸田)意思決定の脳内機序
	第10回(滝澤)発達障害の2次障害
	第11回(東田)オキシトシンと神経性行動
	第12回(熊崎)自閉スペクトラム症と嗅覚特性
	第13回(大井)社会問題としての自閉症
	第14回(菊知)オキシトシンと脳内の社会的情報処理の関係
	第15回(村中)自閉症の哲学
授業外における学習	・E-Learning 教材(授業動画)視聴などで Web 学習システム(CLE)を活用するので、各自利用方法に習熟しておくこと。
教科書・参考書等	授業中に指示、または資料を配付する。
成績評価	出席回数が 2/3 以上に達した学生に対して、講義への参加・聴講態度や理解度・課題提出状況などをもとに総合的に判断し、一定の基準に達したものに対して、2単位を認定する。
コメント	・授業を受講するにあたり特別な配慮を必要とする学生は、授業開始前に申し出ること。